

喉頭癌の検査 について

日本臨床検査専門医会
東條 尚子



■ 喉頭癌とは？

喉頭癌は声帯およびその周辺に発生する悪性腫瘍のことです。喉頭はいわゆる「のどほとけ」の位置です。気管へ通じる空気の通り道であり、声帯を振動させて声を出したり、食べ物が気管に入らないよう防いだりする機能もっています。喉頭癌は、声帯から上にできる声門上癌、声帯にできる声門癌、声帯より下にできる声門下癌の3つに分けられ、65%が声門癌です。

■ どんな人にできやすいのですか？

喉頭癌患者の96.5%は喫煙者で、60歳代後半に発病のピークがあります。発生男女比率は10：1と大きな差が見られますが、非喫煙者では男女比が1：1と性差がなくなることから、喫煙習慣の影響が強いと考えられています。喫煙による危険率は肺癌よりも高いことが示されています。その他、遺伝的な要因、飲酒、大気汚染、アスベスト、声帯の使いすぎなども原因と考えられています。

■ どんな症状ですか？

最も多い症状は声のかすれと咽頭違和感（のどのイガイカ感）です。声門癌では、癌



喉頭癌の危険因子

が声帯にできるので早くから声がかすれます。声門上癌の場合、進行して声帯に広がるまでは、声に異常は現れません。声門下癌は、進行するまで無症状です。声のかすれは日常よく起こる症状ですが、2週間治らなかつたら注意が必要です。ポリープの可能性もありますが、早めに耳鼻咽喉科を受診して、原因を調べましょう。

■ どんな検査をするのですか？

丸い鏡を用いる喉頭の検査（間接喉頭鏡検査）あるいは喉頭ファイバースコープ検査で粘膜の隆起や発赤が認められれば、病変部の細胞や組織の一部を採取し細胞検査



や組織検査を行なって診断します。さらに頸部のレントゲン写真、CT検査、MRIで癌の深さや広がり の程度を確認します。現時点では、腫瘍マーカー（癌があるかどうかの目安となる検査値）等による血液検査で診断の手がかりが得られることはありません。

■ 治療はどうするのですか？

喉頭癌の治療には、主に放射線療法と手術療法があり、手術療法には喉頭部分切除術と喉頭全摘出術があります。早期に発見すれば声を失うことなく治療することが可能です。他の癌に比べて治療成績はよく、喉頭癌全体の治癒率は約70%です。